

## Track. 4

### 人情紙風船

秋の夜はしみじみと気の合った仲間と 酒を片手に語り明かしたいと思ったけど  
いつしか僕の声はむなしく響きわたり 冷たい木枯らしだけが聞いている

人情 紙風船

\* 繰り返し

自分が招いたはずのこの体たらくだけど どんなに思い返しても何も浮かばないんだ  
夢や未来を語り合った日々は今も美しいけど 目の前には主のない椅子が並ぶだけ

\* 繰り返し

君だけは僕を信じてくれるはずだと 疑うことさえもなかったのに

振り返る暇もなかった喧騒の日々は 疲れきって黒ずんだ顔のしわに残るだけ  
一番大切なものが何かようやくわかったけど それを伝える時間もすべもない

\* 繰り返し